



東側外観



広間から土間を介してハナレを見る



土間

きの家

和歌山にあるハウスメーカーが地域のニーズに応えるため、提案する戸建て住宅である。全国に同じ住宅をつくっているハウスメーカーとの違いを、間取りや空間、素材などで表現している。日本の民家や農家で古くから使われている土間や広間などの構成要素を再構成し、シンプルで機能的なデザインにまとめ、様々な購入者に対応している。

内と外、オモヤとハナレを、平面では広い土間で、断面では吹抜けでつなぎ、各室と庭が一体となった住宅である。木や土、焼き杉板など自然素材を使い、さらに紀州（和歌山県）産材にこだわり、地域に根付いた住宅を目指している。

土間が中心

広間と一体となった土間を設け、そこを中心に生活が展開し、家族と社会に開いている。広間と庭は土間を介して一体で、自然と関わりを持ちながら生活を楽しむことができる。また、個室と土間とは吹抜けを介して上下でつながり、どこでも家族の気配を感じることができる。

オモヤとハナレ

オモヤとハナレを土間と軒下空間でつないでいる。モデルハウスではハナレを和室としているが、仕事場や二世帯住宅としての展開も想定している。



2階廊下

庭とつながる

版築と黒木のウバメガシの生垣に囲われた庭を設けた。土間を介して内と外がつながり、和歌山の豊かな自然を取り込む。



軒下空間 ハナレからオモヤをみる



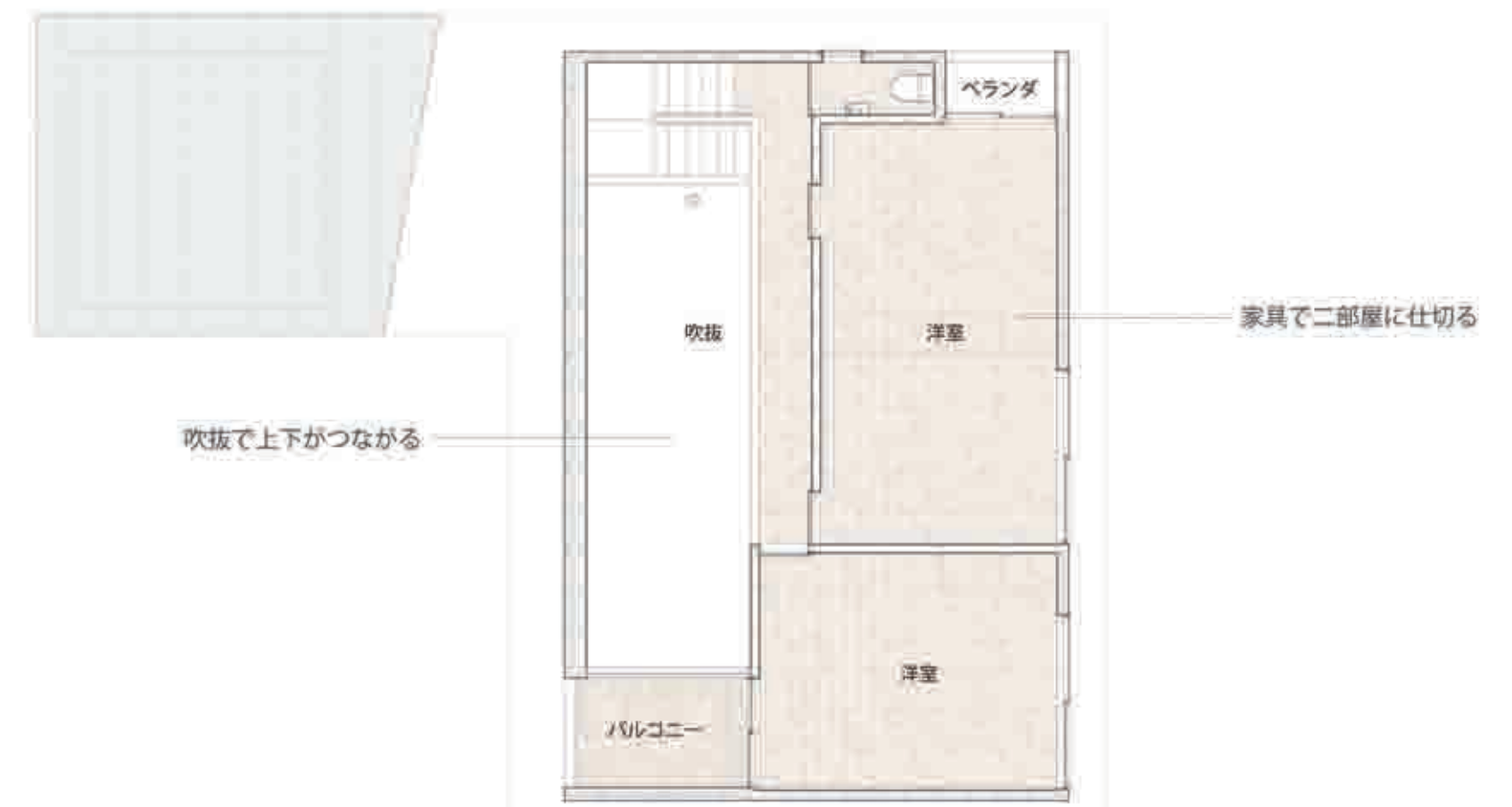
南側外観

紀州産材でつくる現代の民家

地域の素材を使い、地域に根差した民家や農家のように、永く使い続けられる、和歌山の住宅のスタンダードを目指している。構造材、外壁の焼き杉板、天井や床など内装仕上、家具や建具にも紀州産の杉や桧を、版築壁や土壁、土間には紀州産の土を用い、紀州産材のあたたかみのある空間が実現した。



広間から土間を見る 2階洋室



2F 平面図



1F 平面図



建築概要
 敷地面積：417.96㎡ 建築面積：111.85㎡ 延床面積：148.07㎡ (1階床面積：88.45㎡、2階床面積：59.62㎡)
 主体構造：木造 階数：地上2階 外部仕上：紀州産焼き杉板(外壁) 内部仕上：紀州産杉板(床・天井)、紀州産土(床・壁)

断面図 1:100